

# 防災教育・周知啓発ワーキンググループ 防災教育チーム (第7回) 議事要旨

## 1. 日時

令和3年5月17日(月) 13:00~14:30

## 2. 出席者

片田座長、畦地委員、大木委員、加藤委員、橋爪委員、矢守委員

関係省庁〔内閣官房(国土強靱化推進室)、消防庁、文部科学省(総合教育政策局)、国土交通省(水管理・国土保全局)、気象庁、赤澤副大臣、青柳内閣府政策統括官(防災担当)、村川官房審議官(防災担当)〕

## 3. 議題

- (1) 開会挨拶
- (2) 内閣府防災担当から説明
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

## 4. 議事要旨

冒頭、赤澤副大臣から、

「我が国では「防災・減災、国土強靱化新時代」を迎えたと謳ってよい環境。また、令和4年度から始まる第3次学校安全推進計画の柱に新たに防災教育が位置付けられることになり、「防災教育新時代」を迎えたとと言える。」

「全ての小中学校で地域の災害リスクや正常性バイアスなどの必要な知識を教える実践的な防災教育や避難訓練の実施、地域と学校が連携した防災教育を支援する防災教育コーディネーターの育成、幼保の段階から小中高とシームレスな防災教育の実施などに取り組んでいきたい。」

旨の挨拶があった。

続いて、防災教育・周知啓発WG 防災教育チーム提言(案)について、事務局から前回の議論を踏まえた変更点について説明があった。その後、各委員からいただいた主なご意見は以下のとおり。

- 「写真授業」ではイメージが伝わらないため、「写真で危険さがし授業」と変更してほしい。
- 「防災ノート」に関する記載の中に、心のサポート教育についても含めてほしい。

- 「防災教育コーディネーター」の育成については、既に防災以外の分野で学校と地域の連携に取り組んでいる方々に防災についてインプットする方法と、地域防災に取り組んでいる方々に防災と学校の連携についてインプットする方法の両方とも重要。
- 「クロスカリキュラム」に関する書きぶりについて検討してほしい。
- 「STEAM 教育」に関する書きぶりについて検討してほしい。
- 学校の現場でも防災教育の必要性は強く認識されているが、先生方はどのように教えれば良いのかわからず悩んでいる。まずは学校現場でどのような防災教育が行われているのかをしっかりと調査・把握する。その上で、今回の提言を踏まえて、どのように取り組んでいくべきなのか検討をしていかなければならない。
- 学校で教わることと、地域の大人たちがやっている姿とが密接に整合が取れ、その連携のとれた「育みの環境」の中で子どもたちに防災の力が刷り込まれていくのだろうと思う。
- 防災以外の分野で学校と地域の連携に取り組んでいる方々に防災についても取り組んでもらう方法よりも、地域防災に取り組んできた方々に新たに学校との連携に取り組んでもらう方法を前に出した記載にしてほしい。
- テレビで「未就学児への防災教育」について放送されたところ大きな反響があった。未就学児への防災教育が求められている証拠だと思う。
- 「防災小説」は多くの自治体で実施され、広まっている。
- 阪神・淡路大震災の時には防災教育に関する取組はまだ少なく、少ないゆえに重要だというロジックが通用した。現在は、防災教育に関する取組は数多くあり、沢山あるがゆえに本質は何かの検討が求められている。今回の提言ではこれまでの防災教育とは一線を画した新機軸を打ち出すことができおり、この思いを一緒にする人たちをどれだけつくり、巻き込んでいけるかが大切だと思う。
- これまでの議論で、これから防災教育をステップアップするために、何に取り組むべきかを明確にもらった。

**その後、提言（案）は大筋了承され、最終的な文言の詳細は座長一任となった。**